

令和 4年度 事務事業振返りシート

(令和 3年度 実施事業の振返り)

1. 基本情報					
事務事業番号	02437	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)		担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実		担当課長	安栖 賢一
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実		グループ	管理図書グループ
				内線番号	3053
予算科目	会計	一般会計	事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 昭和三3年度 ~)	
	款	10 教育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ )	
	項	06 社会教育費			
	目	08 図書館費			
評価区分	標準評価	評価対象	2次評価	関連計画	図書館法、条例等 図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則 霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>					
(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)					
・市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な図書資料の整備に努め、幅広い年齢層のニーズに応じた図書の提供を行う。(牧園図書室が、牧園総合支所内に移転し、新しく開館した。)また、未所蔵本に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版傾向(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)にも目を向けながら、計画的な購入・相互貸借等の活用で利用者の要望に対応し、図書資料の収集、整理、提供を行う。さらに、図書館施設の維持管理を行う。 ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した新しい機器、自動貸出機・返却機・貸出ロッカー等の利用促進を図り、「非対面型」の貸出・返却・受取」を定着させ、貸出者数・貸出冊数の増加を図る。 ・インターネット予約を推進し、予約本の受取が、各図書室で出来るように改善した。 ・図書館システムの更新に合わせ、ホームページの見直しを行った。 ・未返却本の督促作業を定期的実施し、早めの督促を行うことで未返却者の抑止に繋げる。 ・閉架書庫の整理に努める。					
①活動指標 (事務事業の活動量)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)	令和 5年度 (見込)
ア 入館者数	人	128,203	150,000	195,521	196,000
イ 蔵書冊数	冊	396,350	400,000	395,546	401,000
ウ					
(2) 事務事業の目的					
②対象 (誰に、何を対象にしているのか)	③対象指標 (左記②対象の大きさを表す指標)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)
ア 市民	人口	人	124,882	123,908	123,066
イ					
ウ					
④意図 (②対象をどうしたいのか)	⑤成果指標 (左記④意図の達成度を表す指標)	単位	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (目標)	令和 4年度 (目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館を除く)	人	77,954	80,000	94,234
イ 興味がある本を読める	貸出冊数(移動図書館を除く)	冊	343,017	350,000	395,419
ウ					
(3) 総合計画との関係					
⑥基本事業の目的、取組方針 (総合計画より)					
多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。					

3. 前年度の評価表に記載した課題		4. 事業費の推移					
令和 3年度の改善改革の内容 (取り組むべき課題)		単位	2年度 (決算)	3年度 (当初予算)	4年度 (当初予算)	5年度 (計画)	
・基本的な司書業務を会計年度任用職員が行なえるよう、担当を持たせ定着させる。 ・未返却本の督促作業を定期的実施する。(特に初期段階での抑止) ・便利なインターネット予約の周知に努め、導入機器の活用促進を図る。 ・廃棄作業を進め、閉架書庫の整理に努める。 ・読書活動の推進に資する、人員と図書資料費を検討する。 ・図書館システムの更新にあわせて、図書室のシステム導入を検討する。		事業費					
		財源内訳					
		国庫支出金	千円	34,947	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	37	80	47	63
		一般財源	千円	65,325	64,440	62,871	62,923
事業費	千円	100,309	64,520	62,918	62,986		

5. 令和 3年度の実績及び成果	
(1) 令和 3年度の実績 (取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和 3年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
・各図書館(室)において、蔵書構成を考慮しながら図書資料等の収集、整理、提供等を行った。入館者数(R2/128,203人→R3/195,521人)貸出人数(77,954人→94,234人)貸出冊数(343,017冊→395,419冊)が増加した。 ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、導入した新しい機器等の利用を定着させた。(国分図書館・非対面型の貸出79.3%) ・インターネット予約を、国分・隼人図書館の貸出可能な全ての本を対象とするよう改善し、更に、予約の受取を全ての図書館・図書室でできるようにした。(予約数・R2/7,970冊→R3/14,242冊) ・図書館システムの更新に合わせ、ホームページを充実させた。(カウント開始3月1日・ホームページの利用数1,385人) ・未返却本の、早めの督促を行った。 ・閉架書庫の整理を行った。(廃棄冊数9,237冊)	・各図書館(室)が、蔵書構成を考慮・工夫しながら、新たな図書資料を収集・提供することができた。 ・広報きりしま等での特集記事掲載や、新しい機器等の導入の効果により、利用者が増加した。 ・新しい機器を導入し、「非対面型サービス」を提供する体制が定着した。 ・セキュリティゲート設置により、手続き漏れ・盗難防止策が改善した。 ・ホームページの改善や、予約本の受取方法を改善するなど環境を整えたため、予約数が増加した。 ・未返却本の早めの督促により、未返却者が減少した。 ・開架書架のレイアウトを変更したことにより、市民が利用し易くなった。

事務事業 番号	02437	事務 事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

**6. 振返り <SEE (check) >**

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	<b>A</b>	多くの分野の本を揃え、市民が必要とする情報を提供し、身近で本に触れ合える場として、市立図書館の重要性は今後も増していく。 コロナ禍の状況において国の交付金を利用し、「非対面型の貸出・返却・受取り」を導入し、機器の利用を定着させることで、利用者、貸出冊数の増加に繋げることができた。図書館運営に関わる人員は必要最小限であるため、これ以上の削減はできない。図書館は全ての市民が利用可能なため、公平・公正である。

**7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)**

		【参考】前年度の改革改善の方向性 継続・やり方改善 << >>				
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 ( 成 果 )	拡 充				
		維 持			レ	
		縮 小				
		休廃止（統合含む）				
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大
		コスト投入（予算）の方向性				
(2) 令和4年度の改革改善の内容（取り組むべき課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>未返却本の督促作業を定期的実施する。（特に初期段階での抑止）</li> <li>便利なインターネット予約の周知に努め、「非対面型サービス」導入機器の活用促進を図る。</li> <li>廃棄作業を進め、閉架書庫の整理に努め、併せて来館者がより利用しやすい開架書架に改善できるように年次的に取り組む。</li> <li>読書活動の推進に要する、人員と図書資料費を検討する。</li> <li>国分図書館及び隼人図書館と、5ヶ所の図書室とで異なる二つの図書館システムの統一化を図る。</li> <li>郷土誌編さんについて、今後の方針を決定する。</li> <li>今後の図書館、図書室の組織の在り方を検討する。</li> </ul>					
(3) 令和5年度の方向性（具体的な取組）	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄作業を進め、閉架書庫を整理し、併せて来館者が利用しやすい開架書架の環境改善に努める。</li> <li>新たに人員と図書資料費を確保し、読書活動を推進する。</li> <li>「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律（読書バリアフリー法）」に基づくコンテンツを検討する。</li> <li>図書室のシステムについて、具体的に進めていく。</li> </ul>					

**8. 2次評価結果（担当部長評価）**

						評価者	職・氏名	教育部長 池田 宏幸
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 ( 成 果 )	拡 充						
		維 持				レ		
		縮 小						
		休廃止（統合含む）						
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大		
		コスト投入（予算）の方向性						
(2) 総評	<p>図書館システムに連動した非対面型の新しい機器を導入し、その周知を図ったことにより、入館者数・貸出人数・貸出冊数がいずれも増加した。また、システムの更新に伴い、不明本については激減した。 今後、市内の図書館と図書室のコンピューターシステムを統一し、その周知を図り、貸出人数や貸出冊数を増加させる。また、霧島市立図書館として、一体的な運用を図り、効果的・効率的な図書資料の整備と図書館運営に努める。</p>							



<b>1. 基本情報</b>						
事務事業番号	02438	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和43年度 ~ )	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度( ~ )	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

**2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>**

**(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)**  
 図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に、移動図書館車での本の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。  
 ・国分図書館移動図書館車「しろやま号、しろやま号小型」、隼人図書館移動図書館車「すずかけ号」  
 ・巡回箇所86箇所 ・配本所27箇所 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)  
 一般巡回場所(各地域・住宅・団地等)・・・年間の移動図書館日程表を作成し、月に1回決まった時間に出向き利用者に貸出を行う。リクエスト(読みたい本)等の要望を聞き、次の巡回日に持参する。毎年巡回場所の見直しを行う。  
 小学校・・・年間の日程表により月に1回の巡回。個人のリクエスト(読みたい本)の要望にも応え、事前に先生方と連携をとり、調べ学習用の本を準備し、貸出を行う等工夫を行っている。毎年巡回学校の見直しを行う。小規模校では、おはなし会も実施している。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア 巡回箇所	箇所	91	86	86	85
イ					
ウ					

**(2) 事務事業の目的**

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア 市民	人口	人	124,882	123,908	123,066	123,639
イ						
ウ						
意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	8,428	8,500	7,298	8,500
イ 欲しい情報を得られる	貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	52,367	55,000	48,180	55,000
ウ						

**(3) 総合計画との関係**

**基本事業の目的、取組方針(総合計画より)**  
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。  
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

<b>3. 前年度の評価表に記載した課題</b>		<b>4. 事業費の推移</b>					
令和3年度の改善改革の内容(取り組むべき課題) ・毎年の業務として、移動図書館の利便性を高めるために、巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できるように改善してまいりたい。そのためには、課題として、図書館から遠い地域に巡回場所を設定し、その場所を知っていたくために関心を持って、学校との連携を密に取り、調べ学習リストや資料を提供できるように、準備をする。移動図書館車を巡回することにより、乳児から大人まで身近な所に本がある環境を提供し、読書推進に繋げていく。		単位	2年度決算	3年度当初予算	3年度決算	4年度当初予算	5年度計画
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	4,630	4,611	4,791	4,937
	事業費	千円	4,630	4,611	4,791	4,937	4,937

**5. 令和3年度の実績及び成果**

<b>(1) 令和3年度の実績(取組) &lt;取組内容を数値等により具体的に記載&gt;</b> ・巡回は、利用者のリクエスト(読みたい本)の要望に応えるなど工夫をして行った。小学校の巡回は、小規模校を中心に市内全体で実施し、読書推進につながった。 ・巡回箇所86箇所(国分しろやま号:52か所・隼人すずかけ号:34か所) ・隼人において効率よく巡回できるように、巡回場所の見直しをした。 ・移動図書館用の本の充実整備を進めた。 ・利用者の予約・リクエストを重視し、市民が求める資料を提供した。	<b>(2) 令和3年度の成果 &lt;左記の実績(取組)による成果を記載&gt;</b> ・利用者からのリクエスト(読みたい本)の要望に応えるサービス等、知りたい情報・求めている本の提供を行い、利用者の利便性向上並びに本の充実を図り読書推進につながった。
---	---

事務事業 番号	02438	事務 事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check) >		
A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	
<b>総合評価判定基準</b>		<b>総合評価</b>
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		<b>A</b>
		<b>理由</b> 図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民への生涯学習支援が「いつでもどこでも」得られる手段として、その機能を生かし、市が実施すべき事業である。今後も市民からの要望等を考慮しながら、巡回場所について検討し、市民の利便性を向上させる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 ( 成 果 )	拡 充			
	維 持			レ	
	縮 小				
	休廃止（統合含む）				
		皆 減	縮 小	維 持	拡 大
		コスト投入（予算）の方向性			
(2) 令和4年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年の業務として、移動図書館の利便性を高めるために、巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できるように改善し、工夫していく。そのためには、図書館から遠い地域への巡回を検討し、コースの設定を見直す。</li> <li>・現在、巡回を行なっている場所についての周知を工夫する。</li> <li>・学校での巡回において学校・学校司書との連携を密に取る。また、調べ学習リスト等学習に役に立つ資料を提供できるように、準備をする。</li> </ul>				
(3) 令和5年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動図書館の蔵書の充実を図り（新刊等の貸出）、巡回を行いながら広く市民が「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に利用できるサービスを実施する。また、移動図書館サービスについて、市民へ広く周知する。</li> <li>・移動図書館の利便性を生かし、「遠くの図書館に来ることが困難な市民」に対しての図書館サービスを拡大できるように巡回箇所の見直し・コースの見直しに取り組む。</li> <li>・市民のリクエスト（読みたい本）等の要望に応えることのできるような体制を作り、身近な図書館としての機能を発揮していけるように改善していく。</li> </ul>				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 ( 成 果 )	拡 充	
	維 持		
	縮 小		
	休廃止（統合含む）		
		皆 減	縮 小 維 持 拡 大
		コスト投入（予算）の方向性	
(2) 総評			



<b>1. 基本情報</b>						
事務事業番号	02440	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~ )	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度( ~ )	
	目	08	図書館費		根拠法令・条例等 図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細を記述)

幅広い年齢層の多様な読書行事等への参加を通して、読書への関心、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。

- ・おはなし会
  - ・赤ちゃん、幼児、児童を対象とした、図書館職員やボランティアグループによるおはなし会の開催(毎月)。
- ・読書イベント
  - ・各図書館(室)で地域の方を対象に、おはなし会、からくり絵本教室、本のリサイクル市、一日司書体験等の開催。
- ・夏休み特別講座
  - ・昆虫のおはなし、植物名付け会、えほんとわらべうた、手づくりおもちゃ教室の開催。
- ・その他開催行事等
  - ・ブックスタート、子ども読書の日、こどもの読書週間、読書週間、緑陰読書、きりしま読書会
- ・図書館だより等の作成・配布

活動指標(事務事業の活動量)		単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア	行事の開催回数	回	79	100	111	120
イ						
ウ						

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)
ア	市民	人口	人	124,882	123,908	123,066
イ						
ウ						
意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)
ア	読書に興味を持ってもらう	読書に興味を持った参加者数	人	2,476	3,000	2,757
イ						
ウ						

(3) 総合計画との関係

**基本事業の目的、取組方針(総合計画より)**  
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。  
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和3年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)  
 ・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。(夏休み行事「昆虫標本づくり」を「昆虫のおはなし」に変更、植物採集教室を「一日司書体験」に変更する。)  
 ・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に広報できるように工夫し、周知を徹底する。  
 ・霧島市子ども読書活動推進計画(第4次)作業部会を立ち上げ、第4次策定に向けた準備を始める。  
 ・ブックスタートからその後の読書活動につなげる新たな事業を創設する。  
 ・司書が選定したお薦めの本を貸し出す新たなサービスの運用を開始する。  
 ・福祉コーナーの充実を図る。

4. 事業費の推移

事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	道庁支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	557	644	625	619
	事業費	千円	557	644	625	619

5. 令和3年度の実績及び成果

(1) 令和3年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和3年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<p>各種読書推進行事等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート(12回、1,202人参加)保健センターと連携し、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催した。</li> <li>・おはなし会(74回、733人参加)新型コロナウイルス感染症の状況で中止することもあったが、昨年度より多く実施することができた。</li> <li>・夏休み特別講座(4回、65人参加)参加人数を制限して実施した。</li> <li>・緑陰読書(3回、55人参加)</li> <li>・読書イベント(12回、672人参加)感染症対策を講じ、縮小して実施した。</li> <li>・きりしま読書会(6回、30人参加)</li> <li>・図書館だより等の発行(12回)</li> <li>・感染症対策として令和2年3月から実施した、貸出冊数5冊から10冊への変更を引き続き行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りのおはなし会や読書まつり等の行事を開催することができなかったが、昨年度よりおはなし会や行事の回数や人数を増やすことができた。</li> <li>・感染症対策を講じ実施したブックスタートは、赤ちゃんにとって本が大切であるとの認識が浸透し、図書館利用やおはなし会の参加につながった。</li> <li>・貸出冊数5冊から10冊への変更を引き続き行ったため、昨年度より貸出人数や冊数が増加し、読書推進につながった。</li> </ul>

事務事業 番号	02440	事務 事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

**6. 振り返り <SEE (check) >**

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有 効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効 率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公 平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	<b>A</b>	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、読書推進を自治体が行うことが求められているため、市が本事業を行うことは妥当であり、目的に結びついている。そのためには、図書館（室）とボランティアグループ等が連携をとり、幅広い年齢の方が参加できる読書行事を開催することで、市民に図書館が身近な施設と感じてもらい、その結果、現状値の向上が期待できる。

**7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)**

		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 ( 成 果 )	拡 充			
		維 持			レ
		縮 小			
		休廃止（統合含む）			
			皆 減	縮 小	維 持
			コスト投入（予算）の方向性		
(2) 令和 4年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。(夏休み行事「昆虫のおはなし」を「昆虫採集教室」に変更し、城山公園で開催する。)</li> <li>・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に広報できるように工夫し、広報誌やホームページ等の周知を徹底する。</li> <li>・霧島市子ども読書活動推進計画（第4次）の第4次策定に向けた準備を行う。</li> <li>・ブックスタートからその後の読書活動につながるよう、赤ちゃん絵本や、すくすくコーナー（子育て世代向け）の充実や周知を行う。</li> <li>・福祉コーナー（大活字本、朗読CD、点字、LLブック）の充実を図り、ホームページ等で広く市民に周知する。</li> </ul>				
(3) 令和 5年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式に準じた読書行事の内容を見直し、幅広い年齢の方に参加していただけるよう実施方法の工夫や改善を行い、魅力ある行事内容の充実を努める。</li> <li>・霧島市子ども読書推進計画の第4次策定に向けた準備を行ない、定期的な読書推進活動につなげる。</li> <li>・ブックスタートからその後の読書推進として、赤ちゃん絵本や、すくすくコーナー（子育て世代向け）の充実や周知を行う。</li> <li>・福祉コーナー（大活字本、朗読CD、点字、LLブック）の充実を図り、ホームページ等で広く市民に周知する。</li> </ul>				

**8. 2次評価結果 (担当部長評価)**

						評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 性 ( 成 果 )	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大
			コスト投入（予算）の方向性				
(2) 総評							

